

No.	事業名	団体名	所在地	事業概要	助成額	内訳	選定理由
1	東近江ワンベラントサポートプロジェクト	一般社団法人がもう夢工房	滋賀県東近江市	コロナ禍で生活が困難し食費を切り詰めるひとり親家庭等に対して、サポート事業を立ち上げ、現在申込者数は160世帯を超えている。その数は今後更に増加し市内で600世帯になると予想している。このため、社会福祉協議会、まちづくり協議会、訪問介護などに連携し、都合のつく時間に住まいや仕事先の近隣で食材を受けとれるよう供給システムを構築する。また、フードバンク東近江並びに市内の農業者等と連携して食材の調達システムを構築する。また、事業後もこの状況が解消するとは考えられないため、社会福祉協議会を中心に要支援者を組織化し、今回の食材支援に関わらず「ひとり親家庭」支援プロジェクト等の持続可能な組織化を目指す。	6,000,000	<直接事業費> 5,352,000 <管理的経費> 648,000	緊急性も高く波及効果も大きいと考えられることから採択。
2	地域のおゆみを止めない支援拡充事業	認定特定非営利法人まちづくりネットワーク東近江	滋賀県東近江市	コロナ禍でまちづくりのおゆみを止めないため、対面型からオンライン型の対話・交流・情報発信への転換を図ることが急務である。このため、本事業で次の5つの活動を行い、したいことができるように、遠い人にもつながるような、新しいつながりを創っていく。 ①オンラインによるコミュニケーションツールの活用支援、②SNSでの情報発信支援、③オンラインによる視察の受入れ・交流支援、④コロナ禍で地域の課題や思いを地域で共有するオンライン会議の運営支援、⑤多文化共生まちづくりの支援（東近江国際交流協会等と連携した外国人の困りごと電話相談窓口の開設、コミュニケーション促進としての日本語教室の増設支援等）。	4,800,000	<直接事業費> 4,800,000 <管理的経費> 0	緊急性も高く波及効果も大きいと考えられることから採択。
3	多文化共生実現のための就学支援事業	準学校法人 日本ラチーノ学院	滋賀県東近江市	コロナ禍において、学校を「安心して学習できる居場所」とするためのコロナウイルス感染予防対策と就学できない子どもたちを増やさない「支援体制」を整える。①子どもたちが安心して就学できる環境をつくるための感染予防基盤整備（エアコン、トイレ等）②保護者の経済的負担を軽減するために、学費等の一部を徴収猶予する。本事業を通じた緊急雇用対策の検討。③不登校児抑制の一環として日本の学校の教職員へのポルトガル語を学ぶ機会の提供。④日本の学校に通学することになった子どもたちに、日本語を少し覚えてから戻れるような仕組みづくり、学習の遅れや子どもたちの不安を解消するためのリモート学習環境を整備	20,000,000	<直接事業費> 20,000,000 <管理的経費> 0	ブラジル人子どもたちにとって大切な学校であるが、必要最低限の設備すら整っていない。市内の日本人とブラジル人をつなぐハブになってほしい。今回の提案に必要な施設整備を期待して採択。
4	コロナ禍の課題解決を目指した地域福祉活動	社会福祉法人 東近江市社会福祉協議会	滋賀県東近江市	①今後益々増加が予想される外国籍の困難者への支援を実現するため、外国籍市民への当法人相談支援体制を強化する。②地域活動の停止により発生している孤立を解消するため、地域活動応援BOXを作成し、新型コロナ感染者への偏見を解消するための啓発・感染予防チェックシート・体験や免疫向上レジンなどの地域活動ツール・感染予防のための衛生用品などを提供する。③経済的困難世帯の子ども学習支援、地域のサロンや子ども食堂など、活動拠点へのW E B環境整備とそれを活用するための学習機会を提供する。④介護虐待を防ぐため介護、障害福祉事業所を対象に第2波以降の感染予防や罹患時対応、各施設の応援体制を構築する。	13,000,000	<直接事業費> 11,828,362 <管理的経費> 1,171,638	緊急性も高く波及効果も大きいと考えられることから採択。